'97 12月号 No. 542

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第２１５５回★★ 十二支の山 牛ケ峰山 △713m	12月６日(土) ６：00 ＪＲ二条駅前集合	大倉寛治郎 (4611) (0771-74-1016)	京都－（Ｒ９）－温泉町千谷－越坂－牛ケ峰山－湯村温泉－（Ｒ９）－京都
若干の積雪があると思われますので，それなりの準備をして下さい。 下山後，温泉で汗を流しますので，洗面具の用意を忘れずに！ 今年最後の十二支の山であり，山頂で祝い事を行います。皆様のご参加をお待ちしています。 1／5万図　浜坂　1／2.5万図　湯，扇ノ山			
第２１５６回★ 愛宕山と柚子風呂	12月７日(日) 10：00　清滝集合	吉田　武 (654)	清滝－愛宕山－水尾別れ－水尾
水尾「繭源」（マユゲン）にて夕食（水炊きまたは鳥スキ）をして帰ります。 申し込みはしめ切りました。			
第２１５７回★ 平成９年度納山祭 保津峡	12月20日(土) ～21日(日) 20日　12：00 壬生厚生会館前集合	井戸　澄夫 (810) (075-822-9181) 山岡　昭弘 (796)	ＪＲ山陰線保津峡駅の下の川原でキャンプファイアーをします。
食料等の準備の都合上，12月12日までに，担当者に連絡して下さい。参加費は実費を徴収します。			
第２１５８回★ 平成10年初登山 虎御前山	平成10年１月４日(日) ７：30 ＪＲ京都駅２Ｈ集合	大倉寛治郎 (4611) (642－4332) 三橋　勉 (075-581-3562)	
７：45発米原行に乗車します。（乗車券は「虎姫駅」まで購入して下さい。） 時間に余裕があれば，小谷山（小谷城跡）へ登りたいと思います。 参加される方は，準備の都合がありますので，必ず，担当者まで連絡して下さい。 山頂で暖かいものを準備します。参加費は500円です。（当日徴収） 1／5万図　　長浜，竹生島			

第２１５９回★ 野沢温泉とスキー	平成10年１月15日 ～18日 15日　22：00 妙心寺北門前出発	大倉寛治郎 （4611） （0771-74-1016）	15日　22：00　京都発 16日（スキーを楽しむ） 17日（スキーを楽しむ） 18日　18：00　京都着
宿泊　民宿「マルトミ」（改装で新しくなりました） 費用　35,000円 申込　申し込み金10,000円を添えて，担当者まで!! 〆切　平成９年12月15日			

今月の集会

日　時　　12月11日（木）18：00
場　所　　厚生会館　４Ｆ　大教室

企画運営委員会

日　時　　12月18日（木）18：30
場　所　　厚生会館　４Ｆ　大教室

京都をとり囲む山々が彩りを深めて，まさに秋たけなわとなってきた。地下鉄が開業したばかりの醍醐や岩倉にも大勢の観光客が押しかけて，地下鉄の乗客数は好調である。

しかし一方では，バス系統の再編によって不便になったという声が多くあり，早急な見直しを迫られている。経営主体は京阪バスや京都バスに変わったが，京都市が住民の声を反映するべく最大限の努力をすることになっている。市民の利便の確保と経営の効率性をいかに両立させるか。非常に難しい課題である。

非常に難しいといえば，12月に国際会館で始まる地球温暖化防止会議（COP３）である。CO_2の削減目標がなかなか決まらない。地球全体が温暖化することによる危険性は各国とも理解するが，CO_2の削減努力が自国の経済発展を阻害することを各国は恐れる。いわゆる総論賛成，各論反対というやつである。少なくともCO_2発生量の多い先進諸国の削減目標を一致させなければ，COP３の成功はおぼつかない。また発展途上国も早急な経済発展を望むばかりに，大気汚染や水質汚濁を発生させたり，あるいは貴重な森林資源を減少させている現実がある。

巨大なる自然の変化は，人間がいくら抵抗してもどうなるものではないが，少なくとも我々は幾多の産業公害を克服してきた歴史をもつ。そして今，廃棄物の投棄とリサイクルのシステムを確立することに真剣にとり組んでいる。人間の活動で破壊した自然は，人間の力で元に戻すことが出来るはずである。人間の叡智がここでも問われている。

12月21，21日は納山祭である。厳寒の保津の川面に灯を映して，一年間をふり返るのもまた一興である。そして１月４日は初登山（虎御前山），１月８日は新年会である。そして山は雪のシーズンとなる。

（H. 9. 11. 16.　記 S.I.）

【第２１４９回例会】

地下鉄東西線開業記念

上醍醐ハイキング

井戸澄夫

1997.10.12に地下鉄東西線が開業したので，それを記念して，地下鉄醍醐駅から醍醐寺・上醍醐へ秋のハイキングに行こうという企画を立てた。他の例会との日程調整がなかなかうまくいかず，10月26日になったが，この日は京都まつりのパレードのある日で，部員諸氏には動員がかかり，来ていただけなかったりして申し分けないことになった。しかし，絶好の晴天に恵まれて，京都まつりも成功し，上醍醐ハイキングも楽しく大いに盛り上がった。

9:00，真新しい醍醐駅コンコースに集合。ほとんどの方が地下鉄東西線に乗って集まった。住宅地の中を醍醐寺の門まで約15分である。たくさんあった市営住宅はほとんどなくなり，高層住宅への建て替え工事が進んでいる。醍醐寺門前は時代が変わってもほとんど変わらない。しかし醍醐寺は，地下鉄の開通で拝観者が激増しているそうで，以前は金堂や五重塔周辺は立入自由であったのが，拝観料をとるようになり，女人堂への道はネットフェンスで仕切られてしまっている。我々は境内の南側を迂回して登山口へ行った。女人堂で山の水を水筒に入れ，若い人にビールやウドンの歩荷を頼んで登り始める。幾度となく登った道であるが，山上の観音様へ参拝する人々が列をなして，いつの時代も変わらないであろう風景である。

約1.5時間で準提観音へ到着。奥の空地でさっそく乾杯。キツネウドンを作る。それぞれの弁当を分けあい，和気あいあいとおしゃべりし，秋の日射しを楽しむ。記念撮影の後，音羽山方面や炭山方面へ行くグループにそれぞれ分かれ解散となった。

京都近郊には本当によい自然が歴史とともに残っている。

【参加者】

岡田茂久，　方山宗子，　坂井久光，　津田　実，　森本清一Ｆ１，　井戸澄夫Ｆ１，
竹田　勉，　堀田　剛，　清水康裕，　国友　修，　岩野誠司Ｆ２，　西尾直樹，
今井勇一郎Ｆ１，　他４名（計22名）

【第２１５１回例会】

錦繍の奥秩父
国師岳・北奥千丈岳・金峰山

松浦健一

1／2.5万地形図を購入し，アプローチ，登山道をマーキング，百名山のビデオで予習，と準備万端で臨んだ山行であったが肝心の体調が万全といえない状態で臨んだ山行であった。

暗いうちに京都東Ｉ.Ｃ.から名神に乗り，朝焼けの町並みを見下ろしながら快調に車を走らせる。養老Ｓ.Ａ.で朝食をとるが，少しタイミングがずれて注文できなかった「朝のバイキング」が少々気になる。すっかり日が昇り，紅葉の始まった山肌を照らしている。名神から中央自動車道に入り，岡谷ジャンクションを過ぎると，右に南アルプス，前方に八ヶ岳，逆光の富士山，そして目指す奥秩父の山々が姿を現わす。甲府市街のスーパーで食材を購入，山々に囲まれた甲府盆地の中を走り抜ける。淡いピンクに色付いているリンゴの甘酸っぱい香りが，窓越しに漂ってくるようである。峠のふもと，落葉のジュウタンの上で昼食をとる。十分日が当たっているが気温がかなり低くじっとしていられない。舗装が切れ，荒れた林道となる。所々道路整備がなされているが急カーブが多く，前日に降った雪が所々残っており，山腹から湧き出る水で道路は凍り，慎重な運転が続く。午後のやわらかい日差しや，紅葉した木々の暖かい色調とは裏腹に気温は０℃近くを指す。

大弛峠付近にはビッシリと車が止めてあり，駐車するのにひと苦労。テント場は大弛小屋で管理されており，指定された番号の所にテントを張る。

丸太の階段で始まる登山道，体の不調のため足どりも重く頭はふらつく。思い通りにいかない自分の体を少々恨みながら，国師岳山頂に着く。次に奥秩父最高峰である北奥千丈岳の登りにかかると，先ほどから顔をのぞかせていた富士山の全容が目に飛び込んでくる。視界には入っているがあまり見たい気分ではなく，力なく足元に視線が下がり，感動のご対面とはいかなかった。気温は０℃らしいが山頂には風があり，体感温度はさらに下がっている。

夕食の豚の水炊きを口に入れるとようやく体が暖まり，そのぬくもりを持ってお先に失礼してシュラフにもぐり込む。焼きニンニクを口に入れてもらい，明日の回復を予感する。料理の方は水炊きよりも焼きもちが人気で，こんがりパリパリになるまで焼き，砂糖，しょう油，七味のタレをたっぷりつけて食べる。明日の分まで手をつけてしまうくらい好評であった。

昨夜の満天の星空の余韻を残し，澄みきった青空が広がり始め，すがすがしい朝をむかえる。体調もまずまずであるが念のため鼻と口をバンダナで覆い，なにやらテロリストチックな姿で歩

きだす。所々霜柱が立っており踏むとバリッと寒そうな音を立てる。木々の間から富士山が姿を見せる。正真正銘の富士山とのご対面となり，「可憐でかわいい」との印象が残る。

朝日岳のガレに出ると視界で広がり，はるか彼方の山々はすでに雪帽子をかぶっている。見晴らしの良さと，おいしいおまんじゅうがついつい休憩を長びかせる。急な登り下りが続き，森林限界を越えると広大な山頂に出る。山頂の標識よりも五丈岩に目が行く，さすがに金峰山のシンボルと言われるだけあり，間近で見るとその雄大さに圧倒される。視線を少しずらせば，目のとどく限りに広がる山並み，おしげもなく360°の大パノラマが展開されている。山頂には他のルートからの登山者も多くかなりにぎわっている。中にはＭＴＢ（マウンテンバイク）を肩に登ってくるパーティーもあり注目を浴びる。見事な展望にうしろ髪をひかれる思いで下山する。

車に戻り昼食をすませ瑞墻山荘へ向う。峠を下りながらふり向くと，山頂付近はガスがかかり始めていた。

ホッとしたのか忘れていた熱が再び上がりだし，窓越しに広がるカラマツの紅葉に絶叫する声を聞きながら，早くも凍結していた道端の小滝を見つけ，つららを折り頭を冷やす。

旅館のような山荘に着き，山菜の天ぷらやマスの甘露煮の豪華な夕食をおいしくいただいたが，部屋に戻ってからの宴には参加できず，明日の回復を願って先にふとんに入った。

瑞　　墻　　山

岡　田　茂　久

今日も絶好の登山日和である。宿泊した瑞墻山荘二階の部屋は登山口正面で，早朝５時頃から自家用車が続々と到着し，登山者が身仕度を整え出発していくのがよく見える。あれだけ人が入れば山が満員になるんではと，追い立てられるような気持ちで我々も出発する。

ロートル組だけはすこぶる元気であるが，若手の健ちゃんは昨夜はノドの痛みと高熱に悩まされ，さすがに体調が戻らず留守番となる。せっかくはるばると奥秩父までやってきたというのに本当に残念だ。

すがすがしい朝の登山道は，栂や白桧の樹林の中の緩い登りで始まる。朝日に白樺の木々が白く輝き，紅葉が逆光に照り映え絶好のプロムナードである。やがて急坂となり一汗かくと，富士見平の手前の台地に乗り，落ち葉のクッションも快適な，広い道が富士見平に導いてくれる。富士見平は金峰山と瑞墻山登山道の分岐で，古びた小屋が一段高く建ち，辺りの栂の大木の間にテントが散見している。

富士見平から天鳥川へは下り道となる。うっそうとした樹林の中の道をトラバース，所々に開

ける樹間からは，真っ白に輝く瑞墻山の岩峰群が屹立している。じめじめした急坂を下りきると，天鳥川の渡渉地点だが水流は見られない。

ここからは梯子，木の根っ子を掴んで身体を持ち上げながら，いくつもの岩塊を乗り越える急登である。登りだしてすぐ，ルートを遮る15mはあろうかという大岩が，ばかーっと真二つに割れているのに驚く，頂上近くから落下したのであろう。高度はぐんぐん稼げるものの，すこぶるつきの喘登が続く。途中，下ってくる賑やかなパーティとすれ違う。「イヤーッ，こんなとこで」京都山岳会のパーティであった。しばしエールの交換，大岩塔の大やすり岩と名付けられる岩峰の裾を巻くと，北側の不動滝からの道に乗り越すコルは近い。コルからは右に折れて，しゃくなげのトンネルを潜り抜けて岩をよじ登ると瑞墻山本峰である。

突如として天空が抜け，ばっさりと切れ落ちた足元，遮るものも無い展望が広がる。瑞墻山本峰はまさに現実に空中に浮かぶ石の楼閣であった。こんもりと樹林に囲まれた小川山からの稜線に続き，昨日登った金峰山の五丈岩のシルエットが空中に屹立し，富士山は雲の上に頂上の雪を輝かせ，右手には大きく裾を引いた八ヶ岳の全容が，バアーンと広がる大パノラマ，しばし出るのはうーんという歓声のみである。

快適な小春日和に素晴らしい景観，なかなか立ち去りがたい頂上で，小1時間も滞在してしまった。下りは早い。転げるようにして半時間程で天鳥川まで下ってしまう。天鳥川から樹間を通して見上げる瑞墻山の岩塔は，首が痛くなるほど高かった。

駐車場では健ちゃんが，すっかり熱も下がったようで待ちくたびれていた。残念賞として信州峠から作久往環に出て，八ッ岳を越えるルートを経て帰洛することにし，茅ケ岳は時間的に無理と次の機会とした。

信州峠の登り口でも，午後の太陽を受けて白く輝く，峨峨とした瑞墻山西面全貌が望め，思わず車を停めてしまった。信州川上から小海線に沿って北上，この辺りは高原野菜が有名で，八ッ岳を背景に日本離れした広々とした景観が広がっている。R299を八ッ岳麦草峠に向かう途中，八千穂高原の広大な白樺林を巡り，麦草ヒュッテでは香り高いコーヒーを賞味。

最後は蓼科高原の石遊の湯，西日に美しく照り映える落葉松林の中の露天風呂が，充実した山行の締めくくりとして，最高のもてなしをしてくれた。

【参加者】

松浦健一，　方山宗子，　三橋　　勉，　渡辺智生，　岡田茂久

【時間記録】

11月1日（土）

山科（5:15）＝ 甲府昭和ＩＣ（10:20）＝ 大弛峠（14:15〜30）… 国師岳（15:15〜25）… 北奥千丈岳（15:35〜40）… 大弛峠（16:10）幕営

11月2日（日）

大弛峠（7:10）… 朝日岳（8:05～20）… 金峰山（9:20～10:05）… 朝日岳（10:55～11:05）… 大弛峠（11:05～12:30）＝ 乙女高原（13:10）＝ 木賊峠（14:30）＝ 増富温泉 ＝ 金山峠 ＝ 瑞墻山荘（16:00）

11月3日（月）

瑞墻山荘（7:00）… 富士見平（7:40～45）… 天鳥川（8:05）… 瑞墻山（9:30～10:20）… 天鳥川（11:05～15）… 富士見台（11:35）… 瑞墻山荘（12:00～13:05）＝ 信州峠 ＝ 川上 ＝ 麦草峠（15:05～25）＝ 蓼科温泉石遊の湯（15:55～16:45）＝ 諏訪ＩＣ（17:15）＝ 京都（22:40）

【第２１５３回例会】

山岳連盟平成９年一斉清掃登山

岡 田 茂 久

11月19日，山岳連盟平成９年一斉清掃登山は，京交山岳部担当である天王山において，地元の「天王山を守る会」約30名と合同で実施しました。京交山岳部は14名が参加。

秋晴れの日曜日とて，天王山には５千人近いハイカーが押し寄せ大混雑，山の美化を訴え，ゴミ持ち帰り運動をＰＲしました。最近はハイカーのマナーも向上し，全体にゴミは少なかったようです。終了後は紅葉に被われた大山崎美術館を訪ねました。

【参加者】

森本Ｆ１，山元Ｆ１，和田Ｆ１，伊豆蔵，西尾，馬淵，方山，渡辺，田村，坂井，岡田

【個人山行】

十二支の山　牛ケ首峠と大倉岳　三等 650.4m

大　倉　寛治郎

10月14日（火）本日の山行を津田さん，津田夫人，私の三人で花園の家を午前6時03分に出発する。今回で8山目となる。勤務の都合でなかなか予定通りにいかない。

三条京阪の前を通ると京津線の駅構内の軌道は封鎖がしてあり，二日前の乗客の賑わいは見られなかった。12日には地下鉄東西線の開通で乗客の流れも変わった。旧九条山駅の軌道上には，役目を終えた車両が留置してあった。皮肉にもその地下を新造車両が走っている。また道路上にあるホームは撤去作業が行われていた。旧東海道の名残もまた一つ消え，工事が完了すれば車の往来が多くなるのではないか。時代の流れを感じる。そうした風景を見つめながら車は名神高速京都東ＩＣへ入る。途中南条ＳＡ，尼御前ＳＡで休憩を取り北陸道小松ＩＣを出る。少し国道8号を北浅井まで行き信号を右折，国道416号を小松市尾小屋町へ。途中には西尾村にある「日本海を見下ろす観音山」があり時間があれば立ち寄ることをすすめたい。人家が見えると大倉岳スキー場の案内標識があり，左へしばらく行くと大倉岳登山口の標識がある。その上に資料館があるが登山者は駐車をしないで下さいとあり，登山口の広くなった所に駐車する。登山道を登って行くと道は右へ曲がる。カーブの左の坑道跡には「金沢大学放射能低レベル測定」の施設がありすぐ上には堰堤がある。さらに登って行くと登山道は資料館からの道と合流する。舗装された道をいくと右側にはほとけ峠の由来と十一面観音がある。この道も由来の碑を立てるために作られた道と思われる。少し行くとこの道も終点となり，ここからは新しく整備された「グリーンプロムナード尾小屋」の遊歩道となり快適に散策することができる。

樹林帯の中を行くと植生の標識が多く掲げてあった。ホオノキ（モクレン科），ウリハダカエデ，ナナカマド，ミズナラ，ウラミズザクラ，ダンコウバイ（クスノキ科）など多くの植物が混成している。谷を渡る大変立派な木の橋である。さらに行くと分岐に出る。ここには露頭（鉱物の一部が外部に表れたものである），またここは旧道との分岐で尾小屋鉱山と阿手鉱山を結んだ道と案内の標識がある。一本立て10分程進むとみずばしょう自生地300m，展望広場400mとあり予定どおり行く。以前は大変立派な道であったが現在は雑草が生い茂り辛うじて踏み跡が分かる程度であった。かき分け突き進むと尾根道と合流する。左へとって登って行くと展望広場（作事領）560m「五ケ作峰」三等三角点に着く。展望は生い茂り絶望でマムシと出会い早々に下山

することにし，分岐から尾根に沿って下る。

右方向に目指す大倉岳と鳥越高原大日スキー場，大日川ダム湖，鷲走ケ岳が望めた。かき分け下ると遊歩道へ100ｍほど登るとほとけ峠へ着く。ここからは尾根道となり正面に大倉岳を見ながら登ることになり，左側はスキー場のゲレンデ，その横を20分程で山頂に着くとそこはリフトの終点でもある三角点は四方を囲まれて保護されていた。その横にはナツツバキがあり三等三角点念願の大倉岳へ立つことができた。大変立派な避難小屋もあり展望は360度大展望で白山をはじめ多くの山並みが心いくまで見渡せる。日本海も望め，尽きることはない。少し残念なのは雨雲が出て余り遠くまで見渡せなかったことである。

少し雨がぱらついたがすぐに止み，雲の切れ目から日が射し写真を撮り昼食後大倉スキー場へ下山する。リフト終点からゲレンデを下りゲレンデのなかにコスモスの咲く中を下りロッジの前を通り登山口へ戻る。鉱山資料館の見学を終え，来た道を416号まで戻り，左折し五百峠，丸山町を通り大杉町への分岐が牛ケ首峠，そこには峠にある地蔵さんがあり記念の写真を撮り，峠を下り粟津温泉へ行く途中にわかに雨がふり出した。温泉に入り北陸道加賀ＩＣから高速を走り京都へ着く。皆様お疲れさまでした。

【参加者】

津田実Ｆ１，　大倉寛治郎

【コースタイム】

京都花園自宅 6:03 － 名神京都東ＩＣ 6:25 － 北陸道小松ＩＣ 9:20 －
大倉岳登山口 10:00～12 … 旧道の分岐 10:47～55 … 展望台の分岐 11:06 …
560ｍ三等三角点（作事領，五ケ作峰）11:21～27 … 遊歩道へ出る 11:37 …
ほとけ峠 11:40 … 大倉岳650.7ｍ三等三角点 12:22～13:05 …スキー場ロッジ 13:49 …
登山口 14:12～20 … 資料館 14:25～15:12 … 牛ケ首峠 15:50 － 粟津温泉 16:25～45 －
北陸道加賀ＩＣ 17:36 － 京都東ＩＣ 20:25

【個人山行】

黒桧山（赤城山），上州武尊山，浅間山

吉田　武

4日

上信越自動車道から関越道を通り渋川伊香保ＩＣで降りる。

京都を朝6時に出発してここまで二度の休憩をとり14時に赤城道路に入った。紅葉も今が一番美しいようだ。大沼(おの)の湖岸に車を停めて登山の用意をする。登山道は良く踏まれているがあまり整備がされていない。50分程で稜線に出た。眼下には大沼が美しく太陽に照らされ，前方には地蔵岳が大きく見えた。

稜線を北に少し行くと黒桧山三等△があった。風が冷たいので早々に三角点を後にした。

5日

赤城山レストハウスのテント場より利根村を越えて，片品村の武尊オリンピアスキー場の看板を左折してスキー場最上部のゲレンデに駐車した。

標高1,600m位だろう。所々に雪があったので，今日は新雪を踏んでの登山になりそうだ。ゲレンデを30分位登ると左より登山標識があったのでルートを登山道にとった。急坂と雪の道を30分程登ると日本武尊の銅像があった，前武尊山である。小休止をして歩き出す。雪が多くなってきたが良くしまった雪なので歩きやすく快適であった。

剣ケ峰の岩峰は登らずに右側をトラバースしたが，またすぐに岩稜の登りでトラバースルートもあるが下山する時に歩くことにした。行く手には家の串と中ノ岳，そして最高峰の沖武尊が右から並んでいる。家の串まではゆるやかな登りで，中ノ岳は左側をトラバースして最後の登りを一気に登って沖武尊一等△についた。

昭和58年群馬国体のトレーニングに来た時に登って以来の頂上である。日光白根山や錫ケ岳，そして皇海山が大きく見えた。昨日登った赤城山も美しく見えた。しかし谷川岳の方は雲がかかっていた。昼食をすませて下山することにした。岩稜の所はトラバースルートをとったが積雪が多く苦労させられた。

往復共時間のかかるコースであった。利根村より沼田市を通りＲ145からＲ146北軽井沢のパーキングの芝生にテントを張った。

6日

テント地より30分程で峰ノ茶屋についた。京大火山観測所の前を通って登山道に入った。小浅間山の鞍部までは幅広い林の中を歩く。30分程で鞍部に出た。ここからは左に曲がって林が切れると正面に浅間山が大きな斜面を見せている。

高度をぐんぐん上がって来ると背後の小浅間山がみるみる下方になった。火山特有の砂地が続く，前掛山を過ぎて20分程登ると最高点に達した。直径500mもあろうか火口が大きな口を開けていた。5～6ヶ所，噴煙を上げていた。中ア，御岳乗鞍岳，槍穂高から後立山の真白な雪が見えた。

下山は富士山の砂走りのように早く1時間程で小浅間の鞍部についた。昼食をすませて峰ノ茶屋まで帰る。海ノ口温泉「和泉館」にて入浴して帰った。

【参加者】

吉田　　武，　他4名

【個人山行】

20万仙台地勢図の山（その2）

伊　藤　潤　治

この信仰の道が現存していることを祈ったが，上山市からは，地元へ問い合わせましたがお役に立てていただける資料がつくれなくて，申し訳ありませんと意外な陳謝であった。

点ノ記の順路を気にしていると，不忘山と二井宿の二万五千図をもらった。そして眼を疑った。番城山西稜南面へ大野沢の破線が這い上がっているのである。

これでいただけたと確信したが，念のためと考え，熊除け対策は，昆布岳Ⅰ1,045m（狩太）で笛や鈴を鳴らして登った経験を，言い訳がましく書きそえ，こんども予定コースを記入したコピー図同封で，性懲りもなく七ケ宿町へご助言を懇願した。

こんども林務係長さんより7月30日付で，入山については，再び前回同様のご警告をいただいたが，コピー図へは「ここまで軽4WD車可能の外，（非常に道が狭く落石多し）」等，詳細を注記して下さってあり，涙がこぼれるほどありがたかった。

けれどもこれより先の打開策は，もう微力が及ばぬ領域になったので，永浦さんに面倒をお願いした。

永浦さんには七ケ宿町へご足労いただいて，町民で番城山の主と言われている人を探し当てて案内を依頼し，入山を町に了承してもらったり，四輪駆動車の調達から，登山者の宿は困ると拒む民宿を一泊三食付きにして￥6,500也でたのんでいただく等，たいへんなお骨折りをいただきまして，ここに準備万端整いめでたく入山の運びとなったのである。

8月22日

吉野屋で迎えた朝はガスのために暗く明けきらぬ空であった。

案内に立って下さる達雄さんが奥さんと息子さんとに囲まれて現れ，きのう用意した軽4WD車へわれわれ五名と愛犬りよう（竜）を乗せて，吉野屋夫妻と家族から〃天気は心配ない〃など，にぎやかな見送りで6時30分出発。

国道113号線と別れて大野沢に入ると舗装とも別れて地道になった。地道と言ってもゆったりとした幅員があり，辺りの山は険しい傾斜の美しい林床にすっきりした木立がきれいで，のびのびとした景観があり，大野沢はその名の如く巨大だと感嘆させてもらった。

しかし感嘆は束の間で終わり恐怖に変わった。ある地点から路面に夏草たちが仁王立ちして行方を阻みだした。けれど車を少しも減速せずに，達雄さんは〃リヨウ，前へ〃〃リヨウ，前へ〃と愛犬に前走を下知して急行してくれた。

上下左右から生い茂っていて路面の所在が不明であってもお構いなく，〃リヨウ，前へ〃と鞭打つように繰り返し，肝がつぶれる危険な走行が続くのである。

深海のように生い茂って路面の知れぬところを堂々と乗りきって，左岸の巻き道の下りで，この一帯がシャクカンという植林地であると言って，やっと停車した。ただし喫煙のためらしかった。

左岸の右折を7時10分にして，上りになると，車に薮が覆いかぶさってきて，危険度は急増した。が，達雄さんはいささかも動ぜず駆け抜けてコンター1,020m地点に上り駐車。時に7時44分であった。

先ず達雄さんの難行に心から喝采し，労を感謝で讃えておきたい。「道が狭く，落石多し」とは知らされていたが，薮がこんなに緊張させ，圧倒するとは思いも寄らぬ不覚であった。また脱輪も転覆もせず無事に通過できたことも不思議でならない。

コンター1,020m地点に立った時，ガスは晴れ，南の空にはまだ雲海を脱げぬ峠田岳と青空があった。

朝食をすまし8時15分，自分の足で破線に踏み入る。100mあまり行くと林道が崩落していた。右折のところは水上だが涸谷，ここから薮が密になりだす。そして番城山西稜南尾根コンター

1,140m地点に8時40分着。この南尾根を稜線に上ったのである。

達雄さんは胃癌のため12年前に胃をなくしたと言うが，身軽で足が速くどこまでも精悍でたのもしかった。

山形，宮城両県境線である西稜コンター1,210mには10時35分に上った。

なるほど「この地の熊笹は背丈よりも高く一旦中に入ると外界は空の一部しか見えません」とのご警告どおり，見事な藪だと感心した。藪を登頂して心から誇らしく思った山は相当数あるが，代表格は，ルコツ岳Ⅰ532m（今金），小白山Ⅱ1,609m（荒島岳），徳原山Ⅰ536m（浜坂），大段Ⅲ1,255m（坂根）などで，いづれも向こうずねに血をにじませ，衣服を破られて帰宅している山である。

できるだけ県境線を歩いてみたいと思ったのだが，透き間なく生え込んでおり，必ずあるべき獣道の跡も見当たらずとても太刀打ちできなくて，山形領を進んだ。

ブナその他の大樹林下では，下生えが減少した疎林ができるものだが，ここには立派な大木群があっても，獣糞にも出会えぬまだ密林である。どちらであろうと，こんな自然に浸っていられるのは，それだけで充分である。

険しい斜面の草木を分けて登り詰めると，明るく南面が開けた番城山の頂上であった。

気がつくと永浦さんに手をとられ息のできぬほどの爆発的な祝福を受けていた。

ただ感激と興奮のみ。

この日は盟友河村清氏の誕生日。それを祝し，今西先生をしのび「ロング・アゴ」を歌い，登頂を万歳で祝すなど，あらゆる歓喜を尽くした。

山頂は意外にも藪でなく三角点は20センチ余も露出していた。古峯神社の小石祠もちゃんとあり，また傍らにはトタン葺きの片屋根があって，内には綱，シャベル他の雑器具が置かれていた。そしてそこにはっきりした道が上ってきていたのである。

ああ，ここも信仰が受け継がれていたのかと，その人たちに幸多かれと祈らずにはいられなかった。

12時11分に登頂して，間もなく小夕立がきた。そんな気象であったから展望無視のまま歓喜を尽くして，13時20分下山にかかる。往路に枝折りも目印も施さなかったので脱線が気になった。達雄さんもキハダ（黄蘗）の皮を剥いで，胃薬にも染料にも使用できると説明してくれる余裕があったのだが，やがてここは歩いていないと分かった時は下りすぎていた。

しかし事なく16時20分林道に出て，15分後に乗車できて往路を帰ったのであったが，思いきり踏みしだき引きちぎってきた草木たちは，まったく無傷のままで，また走行妨害をしたのにはあきれかえった。

そして吉野屋へ17時50分に帰着したが，迎えかたがおかしかった。その経緯は達雄さんが奥

さんから15時に戻ってきてくれと言われていたことが一つ，次に町ではその後雨天になったので，留守宅では早く切り上げて帰るものと待っていたが，日没が迫っても戻らないため，あるいは遭難かもと気をもみ，心配のあまり捜索行をたのむ相談の最中，つまり雨天と15時不帰が重なったのが災いしたのであった。

大騒ぎ寸前に下山できてよかったが，しかし申し訳ないが私の計画ではほとんど予定通りの行程と所要時間であって，15時帰着はできない難題である。

永浦さんを始め七ケ宿町のみなさまをいろいろ手こずらして，ようやく宿題が果たせたが，私自身もこれほど手数を要した山は，65年余に及ぶ山歴にはなかった。各位に感謝をいたし番城山に「比類なき薮山なり」を特記することにした。

吉野屋の肝ッ玉かあさんに茶菓や西瓜をご馳走になり，お礼をのべて18時10分，七ケ宿町を発った。しばらく走行していると雨になり，時々はげしく降った。雨は山頂でちょっと降っただけで七ケ宿町を出外れてから降り出すとは奇特な雨であった。

遠刈田，青根両温泉を経て国道286号に出て，川崎町今宿にある一乃湯へ19時13分到着，食事よりも先に入湯ができたことはありがたかった。

（1月号につづく）

例会報告

例会 No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	備考
2149	地下鉄東西線 開業記念 上醍醐 ハイキング	10月26日		井戸 澄夫	全22名	(別稿詳報)
2150	大倉龍王山 十二支の山 臥牛山 全日登山大会 蒜山	10月31日 〜 11月3日		大倉寛治郎		(次号報告)
2151	奥秩父 茅ケ岳 瑞墻山 金峰山	11月1日 〜3日		岡田 茂久	松浦，方山， 三橋，渡辺	(別稿詳報)
2153	山岳連盟平成9年 一斉清掃登山大会 天王山	11月9日		岡田 茂久	全14名	(別稿詳報)

部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記事
十二支の山 牛ケ首峠 大倉岳	10月14日		大倉, 津田F1	(別稿詳報)
蛇谷ケ峰	10月25日	晴	馬淵, 松田 西尾, 山岡	久しぶりの山行は, TM氏のこだわりの山「蛇谷ケ峰」となりました。朽木スキー場から山頂までの1時間余りの道は, 落ち葉や木の実がたくさん落ちていて, トトロになったような気分になりました。当日は天気も良く, 山頂は銀座なみの人出でした。山頂で小宴会の後, 往路下山, 近江高島にある「宝島温泉」で汗を流しました。
加越国境 大日山 (△1,368m)	11月1日 ～2日	晴	廣瀬, 井戸 小森, 堀田 清水康, 他2名	赤瀬温泉泊で北側(小松市)から山頂を目指したが, 積雪が30cm程あり, 断念した。
黒桧山(赤城山) 上州武尊山 浅間山	11月4日 ～6日		吉田, 他4名	(別稿詳報)

訃報

山岳部元副部長の田中忠久氏(60歳, 営業部付, 前南部自動車運輸長・九条営業所長)におかれては, 病気療養中でしたが, 11月11日に薬石効なく逝去されました。

心から御冥福を御祈り申し上げます。

雑　　報

△△△　11月の集会

日　　時　　11月10日（月）18：30～20：00
場　　所　　厚生会館　3Ｆ　電車課横の会議室
出 席 者　　（本局）　岡田，井戸，方山，松浦，山岡　　（高速）　大倉
　　（ＯＢ）　坂井，三橋，渡辺　　以上９名
内　　容　　例会報告ほか

△△△　10月の企画運営委員会

日　　時　　10月20日（月）18：30～
場　　所　　厚生会館　４Ｆ　大教室
出 席 者　　井戸，吉田，大倉，三橋，山元，松田
内　　容　　例会予定，文化祭（11／11～13）について，岳連関連報告ほか

△△△　他山岳会の会報（受贈分）

11 月 号　　京都山岳，北山，趣味の登山，木雞，山友，青嶺，一等三角点，
　　近畿山行，比良山岳

△△△　岳連関係報告

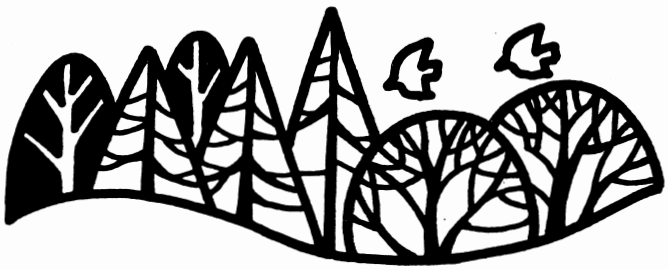
1997年「第10回　山岳遭難を無くする集い」のお知らせ

日　　時　　平成９年12月13日（土）18：30～
場　　所　　京都ホテル東館　２Ｆ　セミナーセンター
内　　容　　講演「中高年登山者の現状」（重廣恒夫氏）他
参 加 費　　1,000円（当日会場にて徴収）

△△△　お知らせ

平成10年１月の集会兼新年会のご案内

日　　時　　平成10年１月８日（木）18：30～
場　　所　　松尾橋西詰下る　「網船小島」
会　　費　　3,000円（当日徴収）
担　　当　　井戸澄夫（外822－9181，内810），山元誠一（外822－9128，内583）
備　　考　　参加者は，平成10年12月19日までに，担当者にご連絡下さい。



家庭用品
衛生用品 } 総合卸商社

日華商事株式会社

本　店　京都市南区上鳥羽大物町13番地
〒601　電話（075）672－6101㈹
FAX（075）661－7332

八坂運送有限会社

京都市伏見区醍醐新町裏町24番地の4
TEL（075）571－1108

帆　布・濾　布
テント・シート
雨　合　羽

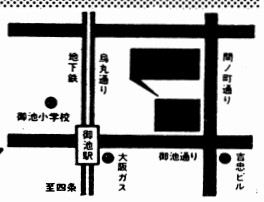
木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL　801－5331（代）
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL　321－0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



LODGE　株式会社ロッジ
営業時間　AM10:00～PM9:00〈年中無休〉
京都市中京区御池通高倉西入（千代田生命京都御池ビル2F）
TEL. 075 (222) 0363　FAX. 075 (223) 5256

葦の髄から天井を覗く … ㉜

前号に続き藤原宇城先生にお選び願った冬の句を紹介。

奥白根かの世の雪をかがやかす　前田普羅
志賀山に遅き月出て霰やむ　渡辺立男
遠山に日の当りたる枯野かな　高浜虚子

エルニーニョの影響か年々降雪量が減り、三八豪雪も語り草になった。今年も一年、駄文に付き合って戴き感謝ナリ。少し気が早いようですが来年も良い年でありますように。

制作 ㈱北斗プリント社
〇七五－七九一－六一二五
（文責 波多野）

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真（カラー・白黒）取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

株式会社 小林地図専門店

〒 600 京都市下京区烏丸通上珠数屋町東入る（３軒目北側）
☎(075) 351－6598㈹

地下鉄：五条駅　５番出口・市バス：烏丸六条下車

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定
サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町８８
TEL（075）771－3442

平成９年12月１日

京都市中京区壬生坊城町 48

京都市交通局内

京交山岳部